

平成30年 滋賀県の労働災害発生状況



平成31年4月
滋賀労働局

労働災害件数は6年ぶりに増加

～ 死傷災害、死亡災害とも増加 ～

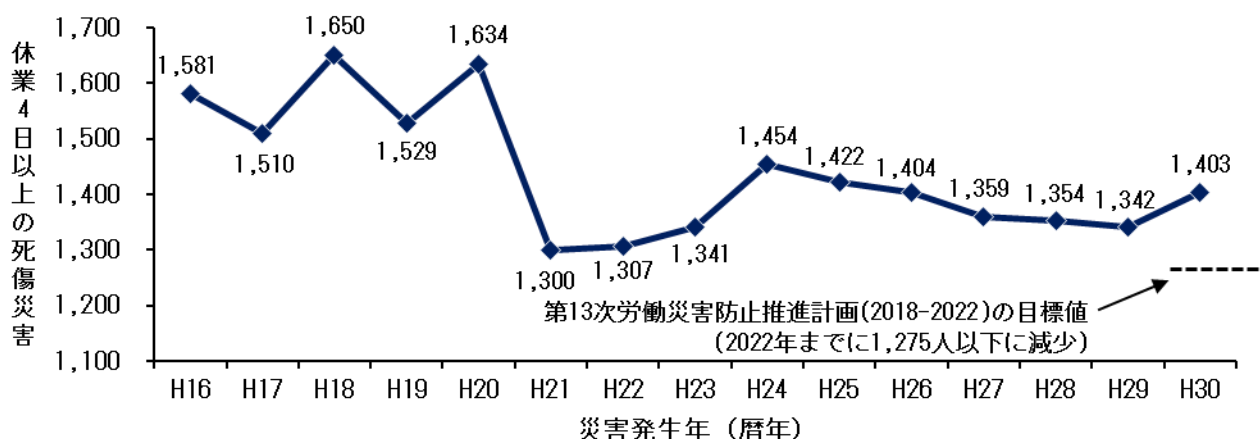
1 概況

① 休業4日以上死傷災害発生状況

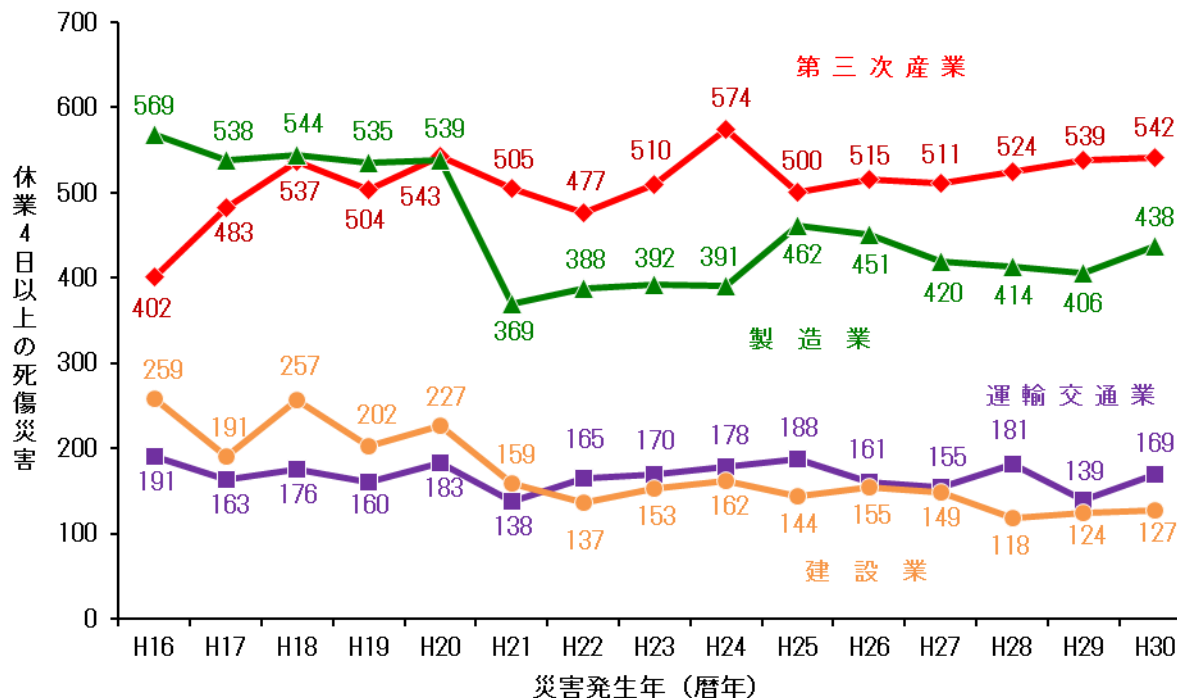
滋賀県内の労働災害による休業4日以上死傷者数は、第1図に示すように、平成24年を起点として5年連続で減少していたが、平成30年の休業4日以上死傷者数は、全産業で1,403人となり、前年に比べ61人(4.5%)の増加となった。

業種ごとの内訳では、第2図に示すように、製造業が438人(前年比+7.9%)、建設業が127人(前年比+2.4%)、運輸交通業が169人(前年比+21.6%)、第三次産業が542人(前年比+0.6%)と主要産業の全てで増加となった。

<第1図> 休業4日以上死傷者数の推移(全産業、過去15年間)



<第2図> 休業4日以上死傷者数の推移(業種別、過去15年間)

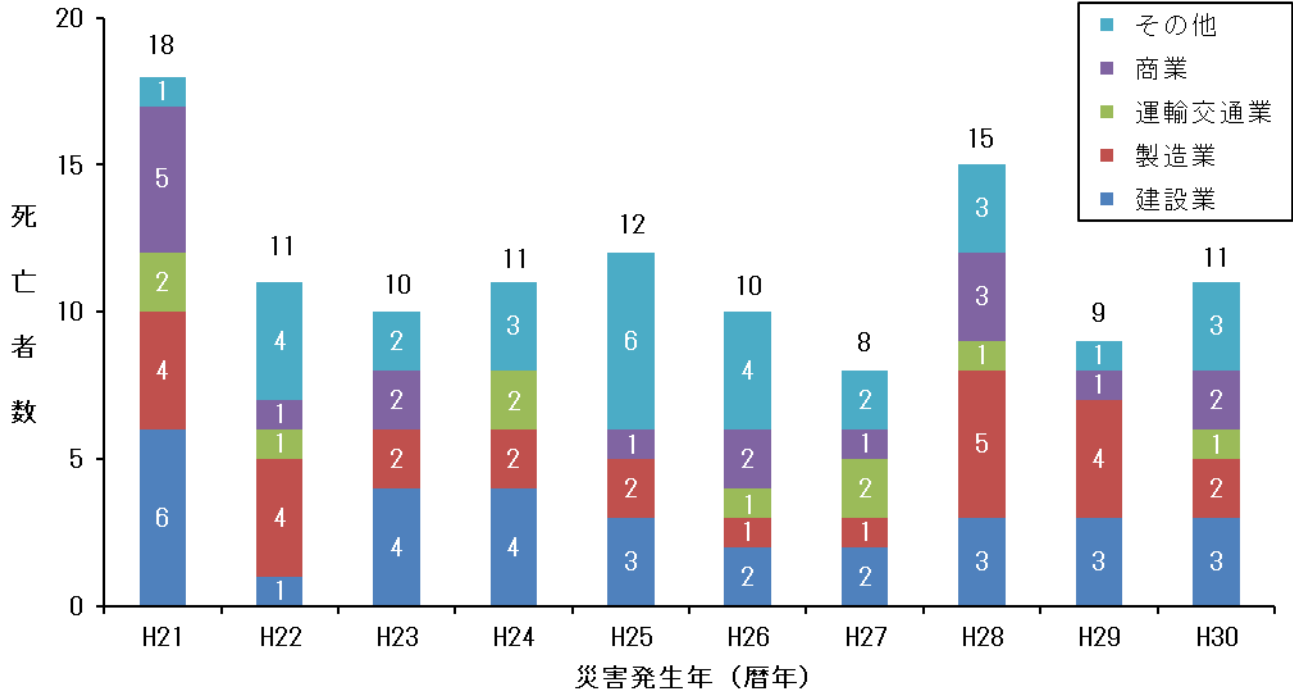


② 死亡災害発生状況

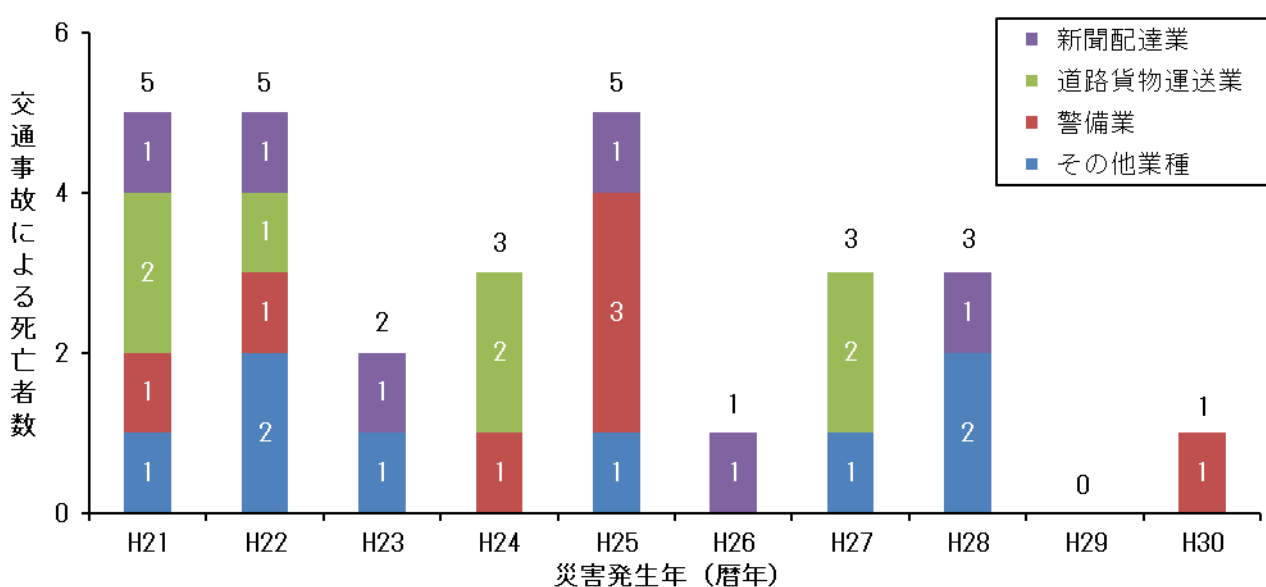
死亡災害は第3図に示すように、平成30年は11人と平成29年から2件増加し、再び10人を上回った。

交通事故による死亡者数は、第4図に示すように1人となった。

＜第3図＞ 死亡者数の推移（過去10年間）



＜第4図＞ 交通事故による死亡者数の推移（過去10年間）

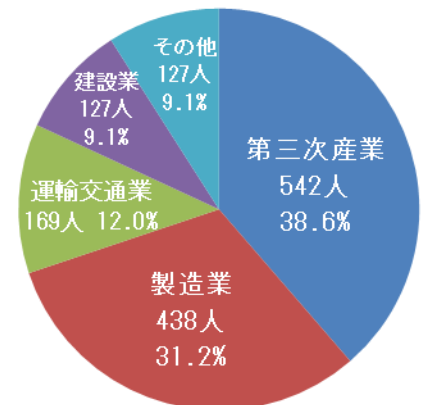


2 業種別の発生状況（平成30年）

① 休業4日以上死傷者数は、第5図に示すように、第三次産業の占める割合が38.6%と最も高く、次いで、製造業(31.2%)、運輸交通業(12.0%)、建設業(9.1%)が多くを占める。

第三次産業の内訳は、542人中、商業(195人)、社会福祉施設(87人)、接客娯楽業(82人)、清掃業(59人)等である。

② 死亡者数は、第3図に示すように、製造業では2人と大きく減少したが、商業が2人、運輸交通業が1人とともに増加し、建設業でも3人と減少していない他、その他の業種が3人（警備業2人、旅館業1人）となった。

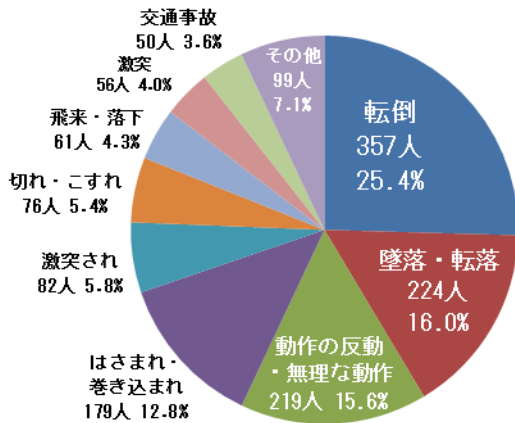


＜第5図＞ 業種別死傷災害
全産業 1,403人

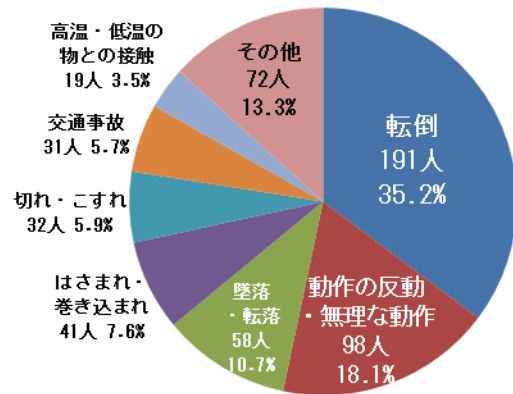
3 事故の型別の発生状況（平成 30 年）

- ① 全産業の死傷者数を事故の型別でみると、第 6 図に示すように「転倒」が 25.4%と最も多く、次いで、「墜落・転落」が 16.0%、「動作の反動・無理な動作」が 15.6%、の順で発生している。
- ② 事故の型別の死傷者数を業種別にみると、第三次産業では「転倒」が 35.2%と最も多く、次いで、「動作の反動・無理な動作」が 18.1%、「墜落・転落」が 10.7%の順で発生している。
製造業では「はさまれ・巻き込まれ」が 22.6%と最も多く、次いで、「転倒」が 21.9%、「動作の反動・無理な動作」が 14.8%の順で発生している。
運輸交通業では「墜落・転落」が 31.4%と最も多く、次いで、「転倒」が 20.1%、「動作の反動・無理な動作」が 17.2%の順に発生しており、「交通事故」の割合は 7.1%にとどまっている。
建設業では「墜落・転落」が 32.3%と最も多く、次いで、「転倒」、「はさまれ・巻き込まれ」がともに 10.2%発生している。

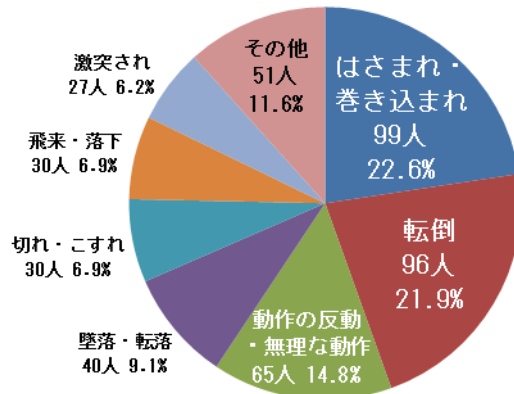
<第 6 図> 事故の型別死傷災害



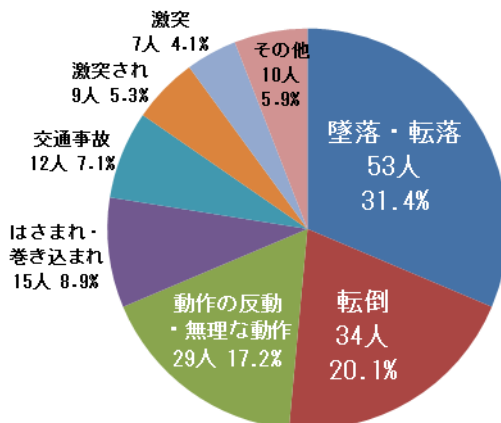
全産業 1,403 人



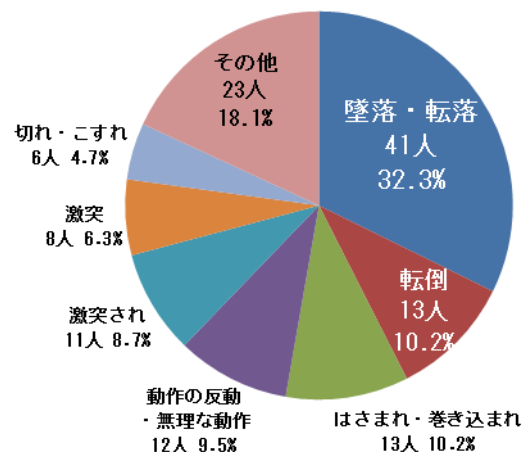
第三次産業 542 人



製造業 438 人



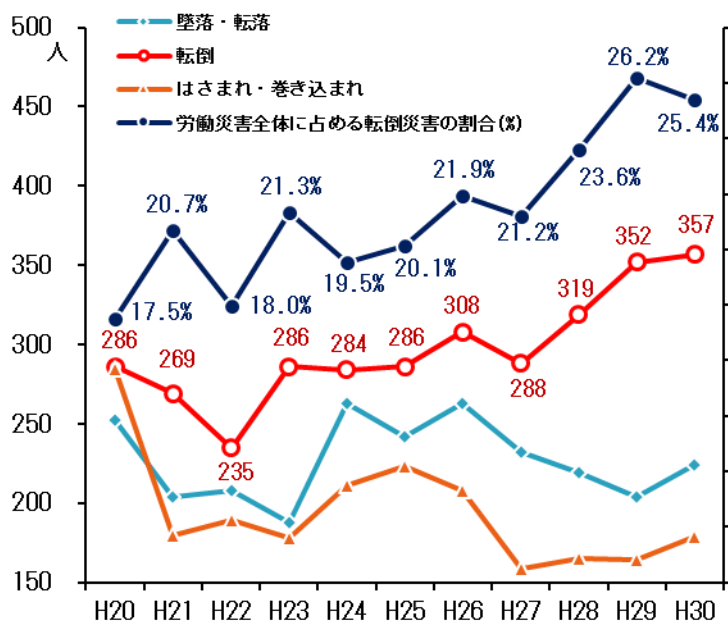
運輸交通業 169 人



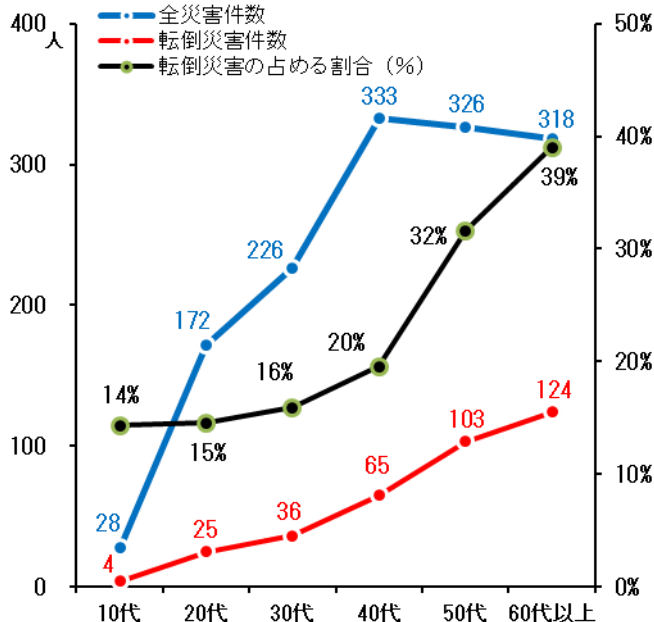
建設業 127 人

- ③ 死亡災害の事故の型別では、全数 11 人の内、「はさまれ・巻き込まれ」、「激突され」、「おぼれ」が 2 人、「墜落・転落」、「転倒」、「切れ・こすれ」、「交通事故」、「感電」が 1 人ずつ発生している。
- ④ 転倒災害件数は、第 7 図に示すように 357 件となり、労働災害全体が減少する中でも、就業者の高年齢化などに伴い、依然として増加傾向を示している。また、労働災害全体に占める転倒災害の割合は、平成 30 年は 25.4%であった。
- 平成 30 年における転倒災害 357 件の年代別件数は、第 8 図に示すように、60 代以上が 124 人と最も多く、次いで 50 代が 103 人、40 代が 65 人となり、各年代の転倒災害の割合は、年齢を重ねるほど高くなる傾向にある。

＜第 7 図＞転倒災害の件数と全体に占める割合



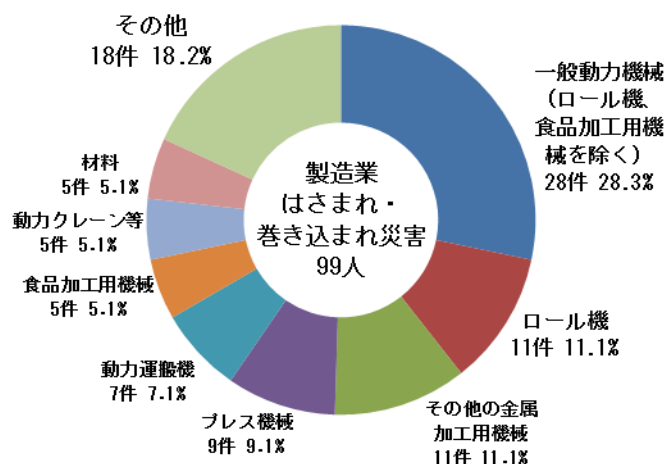
＜第 8 図＞年代別災害件数と転倒災害の割合



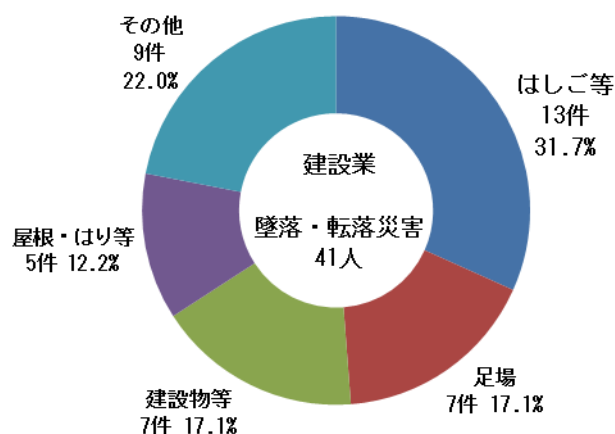
4 起因物別の発生状況（平成 30 年）

- ① 製造業での災害のうち、発生件数が多く、重傷になりやすい「はさまれ・巻き込まれ」災害 99 件を起因物別でみると、第 9 図に示すように「一般動力機械」が最も多く 28.3%を占めている。
- ② 建設業で最も死傷者数の多い「墜落・転落」41 人を起因物別でみると、第 10 図に示すように「はしご等」が最も多く、「足場」「建設物等」「屋根・はり等」を上回っている。

＜第 9 図＞ 製造業における、「はさまれ・巻き込まれ」災害の起因物別内訳



＜第 10 図＞ 建設業における「墜落・転落災害」の起因物別内訳



* 休業 4 日以上之死傷災害は「労働者死傷病報告」による。